



インテックベトナム社内の様子

日本人が常駐して指導

ベトナム ホーチミン

ベトナムでオフショア開発を成功させるには？

自分の眼で現地を見る

よく「ベトナム人は勤勉でポテンシャルが高い」と言われる。ポテンシャルが高いことは確かだが、日本と同じような感覚でシステム開発の発注を行うてはうまくいかないことも多い。

ベトナム人の大学卒業時のITスキルは高いが、プロジェクトが少ないため経験を積むことが難しい。経験のある先輩がほとんどいないため後輩もなかなか育たない。スケジュールを守ることやケアレスミスをなくするためのチェックなど、単純なことを教えるのにかなり時間とエネルギーが必要なのも事実である。

オフショア開発やBPOを発注する場合、日本の常識が通用しないことを前提に自分の眼で現地を視察し、社員のスキルや取引先を確認した上で、どこまで委託するかを責



インテックベトナム 会長
林 道雄

任者自らが判断することが成功のための鍵であると感じる。

以前、私は四川省成都でオフショア開発を行った経験がある。これはかなりうまくいったと思っている。成功したのは仕事を受けてくれた中国企業が優秀だったという理由があるが、もうひとつはプロジェクトマネージャーにあたる日本人が半年以上常駐してくれたことも大きい。

母国語でない言語を使って開発する場合、コミュニケーションロスを防ぐには Skype やメールでのやりとりでよしとするのではなく、プロジェクトマネージャークラスが現地に常駐することが成功への必要条件ではないだろうか。

言葉の問題をどう乗り越えるか

日本からの発注の場合、言葉の問題をどう乗り越えるかも大きな課題だ。コミュニケーションや仕様書を日本語にするのか、英語にするのかという問題である。

漢字文化でないベトナムで、日本語能力検定N4レベルを習得するには優秀な人材で6カ月以上かかる。ミャンマーや中国では3カ月くらいでとれるケースも多い。一方ベトナムで

はITの大学を卒業した多くの学生は英語の読み書きができ、かつ英語の就職先のほうが一般に日本語の就職先より給料が高い傾向がある。英語で仕様書を書くことが可能であれば、比較的人材調達も容易でコミュニケーションロスも小さくて済む。オフショアのメリットを生かすため、英語で仕様書を書くことも重要な選択肢として考えるべきであろう。

長期的な視点で育てる

ベトナム人とのプロジェクトを成功させるためには、長い目で見て育てていくという視点も必要である。かつて中国でも、工場やシステム開発の立ち上がり時期には多くの日本人が指導に行った。ベトナムもコストの下がる便利な場所という発想を捨て、長期的に日本の人材不足をカバーする場所として育てることが重要だと思う。

インテックベトナムでは、社員を日本や中国へ派遣し研修を行うなど人材育成に努めている。より品質の高いサービスを提供し続けるため、「長い目で見て」、粘り強く対応していくことが大事であると考えている。

※基本的な日本語が理解できるレベル